

THE ROTARY CLUB OF KARIYA



Weekly



2008～2009年度 国際ロータリー 李 東建（リー・ドンカン）会長テーマ

Make Dreams Real 夢をかたちに

創立 1954年3月8日
承認 1954年3月30日例会日時 毎週月曜日
12:30～13:30
例会場 刈谷市新栄町3の26
刈谷商工会議所内
事務所 TEL (0566)22-2111
FAX (0566)25-2111
メール kariyarc@katch.ne.jp
ホームページ http://www.kariya-rotary.com
会長 塚本 幸夫
幹事 廣根 実
会報委員長 今村 順

この会報は、地球環境保全に考慮し再生紙を使用しています。

第2611回例会プログラム

[当年度=12回目；当月=3週目]

2008年（平成20年）10月22日(水)

歓迎!! 片山主水ガバナー公式訪問

知立・刈谷合同例会プログラム

1. 合同例会……………〈司会：プログラム委員会〉

- 12:28 1. ガバナー入場
12:30 2. 点鐘……〈会長〉
3. 開会宣言
4. 「君が代」「我等の生業」斉唱
5. 歓迎の辞及び会長挨拶
6. 食事
7. 出席報告
8. ニコニコボックス報告
9. 次週並びに次々週のプログラムの予告
(10/27) ……クラブフォーラム
(米山奨学委員会)
卓話 「私の家族と私の目指すもの」
講師 米山奨学生
スリ・クンチョロさん
(紹介者 市川 裕大 会員)
(11/3) ……休会 (法定休日)

12:55 10. ガバナー紹介

13:00 11. ガバナー卓話
国際ロータリー第2760地区
ガバナー 片山 主水 様

12. 謝辞
13. 「ふるさと」2番・3番合唱
14. 点鐘……〈会長〉
15. 閉会宣言

13:30 16. 散会

片山主水ガバナー公式訪問
会長・幹事懇談会会場 刈谷商工会議所 特別会議室
時間 11:00～12:15

ゲ ス ト

国際ロータリー第2760地区ガバナー
片山 主水 様 (名古屋東南 RC)
国際ロータリー第2760地区幹事
宮崎 薫 様 (名古屋東南 RC)

出 席

会員総数 94名 出席免除 21名
出席義務者+免除者の内例会出席者 86名
欠席 16名 出席率 80.23%
前々回(9/29)の修正出席率 100%



歓迎の辞及び会長あいさつ

塚本 幸夫

本日の知立、刈谷合同のガバナー公式訪問に RI2760地区片山主人ガバナー、宮崎薫地区幹事様をお迎えし、心よりご歓迎申し上げます。先程11時より、知立クラブと合同にてクラブ運営全般に関し、適切な温かいご指導を賜り、厚くお礼申し上げます。今年度の RI テーマ「夢をかたちに」ガバナー方針「持続可能な前進」に基づき両クラブとも活発な活動をしている事を報告申し上げます。

さて、片山ガバナー様は刈谷ロータリークラブ、第23代会長 片山義紹様のご子息であります。私も入会して数年ご指導いただきましたが、大経営者として、またロータリアンとして風格あふれるすばらしき先輩であられました。

今、大変厳しい経済環境になりましたが、「超我の奉仕」の精神を忘れずにまい進してまいりたいと存じます。最後にガバナー様、幹事様のますますのご活躍を心よりご祈念申し上げ歓迎のあいさつとさせていただきます。

「あくび（欠伸）には訳がある」

秋の夜長、寝不足で日中あくびを連発した経験はありませんか。人は脳が疲れた時、思考が堂々めぐりしている時に、あくびをします。

あれは「つまらない」という気分の現れではありません。あくびが脳を活性化しているのです。あくびをすると上顎と下顎を大きく開くことになり、その動作が脳を刺激します。

単に酸素を脳に送るといふ生理的メッセージだけではありません。顎を動かすことで脳の体性感覚野に直接刺激を与えて、脳を活性化しています。つまり「ガンバレ」というエールを顎が脳に送っているのです。

ガバナーのご講演の前に、皆様あくびをしていただき頭をすっきりさせた上で、お話を聞いて下さい。

10月度刈谷RCゴルフ例会

平成20年10月16日(木)

於：多治見カントリークラブ

成績	氏名	G	H	N
優勝	天野 櫻子	79	7	72
2位	神谷 光義	88	15	73
3位	伊藤 節夫	84	10	74
B B	横山 宜幸	101	8	93



卓 話

ガバナー 片山 主水 様



はじめに、刈谷ロータリークラブさんからは、地区へたくさん委員の方を派遣していただき、厚く御礼申し上げます。非常によくやっただけで、大変頼りにしております。

この直前、会長、副会長、幹事、翌年度の会長、幹事の皆さんと懇談させていただき、立派な計画の元に立派に実行に移されているという、力強いお話をいただきました。まったく心配がないと感じた次第です。

今年の地区方針は「持続可能な前進」という言葉で表しています。1972年、ローマクラブが「成長の限界」というレポートを世界に発信しました。将来的な世界人口の爆発的増加と、経済の急激な拡大を支える食糧・資源の消費が、地球環境に与える影響は看過できない重大なもので、無制限に進めば人類は死滅するというものでした。

1992年、「成長の限界」から20年後、世界各国の首脳が集まって、リオデジャネイロで地球サミットが開かれました。そうした流れの中で盛んに「持続可能な」という言葉が使われ、私には大変印象的でした。

一昨年の地区のテーマは「原点回帰」、昨年が「違いをもたらそう」であり、いよいよ私がテーマを決める番になった時、自分の頭の中に強く残っていた「持続可能な」を用いて「持続可能な前進」と決めさせていただきました。30年の歴史を持つ由緒ある言葉ですので、ぜひ覚えていただきたいと思ひます。

具体的な重点事項としては4つを掲げました。私は、その1つ「調和の奉仕」を強調しています。国際奉仕や社会奉仕、青少年奉仕など色々な奉仕を調和良くやろうというものです。そして、奉仕と奉仕以外のロータリー活動、主に親睦ですが、これを調和良くやろうというものです。

社会奉仕は「超^{ちょうが}我の奉仕」という理念に基づいています。「超^{ちょうが}我の奉仕」は自分を無我、無私にした奉仕です。それから職業奉仕は、「最も良い奉仕をすると最も多く報われるという、実践的な理念」に基づいた「両方とも利益があるからやりましょう」という奉仕です。

ロータリーの奉仕の理論とは、自分の我欲つまり利益と、自分以外の社会の利益、この2つ利益の相克をいかに緩和し調和させ、自分の気持ちを納得させるかというものです。

社会奉仕のような、自分を無私にする「超^{ちょうが}我の奉仕」、職業奉仕のような、彼も我もという「彼^{ひが}我の奉仕」、自分だけのための自己奉仕である「唯^{ゆい}我の奉仕」、この三つを「三^{さん}我の奉仕」として、調和をとっていかなければならないと思っています。

次に奉仕と奉仕以外の活動、親睦との調和についてお

話します。ロータリーソングの「我等の生業」は、高野辰之さんと岡野貞一さんによるものですが、この2人は、文部省唱歌の「ふるさと」「朧月夜」「春がきた」といった有名な歌を作っておられる高名な方たちです。

「我等の生業」の中では、「職業は多様だが心は一つ」「求めて止まないものは心の平安と親睦」「義務として務めなければならないものは人間向上と奉仕」だと言っています。まさに、ロータリーの真髄を余すところ無くつかんでいる歌だと言えます。

親睦と奉仕とは、言うまでもなくロータリーを支えている重要な要素であり、昔から2本の柱だとか、車の両輪に例えられています。

私は、奉仕は車の前輪、親睦は車の後輪だと思います。後輪はエンジンに直結し、活力を生み出し、車を動かします。前輪は目的に向かって進めてくれる。親睦はロータリーを下から押し上げ、奉仕はロータリーを導く関係にあり、両方とも不可欠なのです。

奉仕は楽しいものではなく、苦しく厳しいものです。その代わり、達成した時の喜びは格別です。奉仕は喜びを感じ、親睦は楽しみを味わうものです。喜びの精神状態は、楽しみの精神状態より高次の精神状態です。

「親睦を楽しみ、奉仕を喜び、ロータリーに（ほんの少しだけ）人生の生き甲斐を感じる」、そうになっていただけで、ロータリーが価値あるものになると思います。

親睦と奉仕、この2つの調和が大事ですが、どれくらいの割合がいいでしょうか。具体的には難しいですが、持続可能な前進のためには、私は親睦4、奉仕6くらいが、一番バランスが良いのではないかと考えています。

ロータリーに向き合う心の整理ができていれば、どうすべきか、自ずから答えが出てくると思います。どうか皆さんも私の話を参考にいただき、ご自身のロータリーに対する絵を描いていただきたい、どうか真剣に考えていただきたいと思います。